

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 30 日現在

機関番号： 34310
 研究種目： 基盤研究(C)
 研究期間： 2008～2012
 課題番号： 20510257
 研究課題名（和文）女性労働と企業・社会：企業内保育所にみるワーク・ライフ・バランス
 研究課題名（英文）Women's Labor issues, Corporations and Societies:
 Work/Life Balance in Corporate Daycare Center Studies
 研究代表者
 中村 艶子 (NAKAMURA TSUYAKO)
 同志社大学・グローバル・コミュニケーション学部・准教授
 研究者番号：30329958

研究成果の概要（和文）：アメリカの先進的ワーク・ライフ・バランス企業や国内の「ファミリー・フレンドリー企業」、女子学生のキャリア、働き方について論文、共著、共訳の形でまとめた。また、日米のワーク・ライフ・バランス動向を追い、企業内保育所を類型化し、その内容・成果について国内外の学術交流（講演）や学会においてこの課題について発信を行った。

研究成果の概要（英文）：I studied companies advanced in terms of work-life balance and "family-friendly companies" in the U.S. and Japan, female students' career and how to work, which were summarized in journal papers, collaborated publications, and the form of joint translation. The Japan-U.S. work-life balance trends were followed, on-site day-care centers were classified, and the content and results of the research were output in academic exchanges (lectures) in and outside the country, as well as at conferences.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
総計	3,600,000	1,080,000	4,680,000

研究分野：ジェンダー

科研費の分科・細目：ジェンダー

キーワード：女性労働、企業、ジェンダー、ワーク・ライフ・バランス、企業内保育所、経済・労働

1. 研究開始当初の背景

近年、国内でもワーク・ライフ・バランス（以下「WLB」）が重要課題となり、学会や地域セミナー等でもこのテーマが取り上げられてきた。男女共同参画を推進する少子高齢

社会において、育児支援が喫緊の課題であることは論を俟たない。企業社会では2007年1月、日本経団連が「企業倫理の高まりとCSRの推進」の中でそれを「優先政策事項」として掲げ、労働市場の改革として「会員企業に、

WLBの重要性についてさらに認識を深め、多様な働き方の選択肢を用意するように呼びかけた。特に今後5年間に重点的に講じるべき方策として、女性の就労支援策を講じ、企業の主体的な取組によるWLBの実現と性別を問わず仕事と家庭生活の両立を支援することを掲げている。」(日本経団連、2007)。

2. 研究の目的

本研究は平成20-24(2008-2012)年の研究期間内に、日米の女性労働比較を行い、新しい働き方の提示と継続就業の提言を試みるものである。日米の比較から①従業員の家庭生活と職業生活の両立を支援する企業の経営理念、②支援政策と方針、③労働環境、④企業内保育所と関連施策の効果、⑤その問題点、および⑥課題を明らかにし、労働と保育、および企業役割のインターフェイスにおいてジェンダー視点から問題点を浮き彫りにする。WLBの観点から男女共同参画、CSRについても触れながら、男女協働と企業の育児支援についてまとめる。

3. 研究の方法

日本および米国国内での最終的情報収集、調査(企業内保育所追跡調査含む)を行い、ワーク・ライフ・バランス政策、およびジェンダー的視点から見た新しい働き方、経営理念、企業内保育所の意義、企業支援について関与する(あるいは影響をもたらす)企業、機関、団体、学会を訪問し、インタビュー、意見交換を行い、政策面での現状を捉えた。

4. 研究成果

2008-2012年度の本研究「女性労働と企業・社会：企業内保育所にみるワーク・ライフ・バランス」において、申請者(中村艶子)は毎年一定の実績を出すべく取り組みを行った。

2008年度には、論文「アメリカの先進的ワーク・ライフ・バランス企業：SAS インスティテュートの事例を通して」を発表し、企業内保育所の詳細なケーススタディを報告した。2009年度から2011年度の各年には、「ファミリー・フレンドリー企業」、女子学生のキャリア、働き方についてまとめ、それらを共著にて発表するに至った。さらに2011年度は研究テーマ内容の文献を翻訳し上梓するに至った。

本研究期間のうち2009-2010年度には、アメリカのスタンフォード大学社会学研究科ならびにハーバード大学社会学研究科において客員研究員として在外研究を行い、調査ならびに学術意見交換、研究内容の発信を行った。2008年にはミシガン州立大学においてワーク・ライフ・バランスの理論について報告し、在外研究中の2009-2010年度は、スタンフォード大学、ハーバード大学に加え、アーモスト大学、スミス大学、モントレー・インスティテュート国際大学院およびモーリー・マクスフィールド財団などにおいて本研究内容に関する講演の機会を授かった。学会報告も各年行い、2012年労務理論学会全国大会では統一論題において研究内容を報告させていただいた。

なお、本研究で成果としてまとめられなかった部分は、継続して今後の課題として取り組む予定である。

本研究において女性労働と企業・社会をテーマに社会の現状の一考察を行い、社会に対して研究の成果発信ができたことをここにご報告申し上げます。科学研究費のご支援なしには、このような国内外での現地調査を含む広範囲な研究活動を行うことはできなかったであろう。この場をお借りしてご支援に厚く感謝申し上げます。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件) すべて査読有り

- ① 中村艶子 「アメリカの先進的ワーク・ライフ・バランス企業：SAS インスティテュートの事例を通して」『労務理論学会誌』第18号 (労務理論学会) 第18号、2009、151-163。
- ② 中村艶子 「企業内保育所事例に見るワーク・ライフ・バランス発表要旨」『労働政策研究雑誌』(日本労使関係研究協会JIRRA) 特別号No.5832009、2009、70-72。

[学会発表] (計25件)

- ① 中村艶子 「国際的視野からみた男女共同参画」(滋賀県立男女共同参画センター、2012.5.19)
<http://www.pref.shiga.jp/c/g-net/seminar/files/triangle.pdf>
- ② 中村艶子 「アメリカ女性のライフスタイル」(大阪府男女共同参画センターはなみずきキャリア塾、2011.6.25)
- ③ 中村艶子 労務理論学会統一論題シンポジウム (於 中央大学、2011.6.12)
- ④ 中村艶子 「女子学生の就職活動と企業の対応」労務理論学会統一論題 (報告於中央大学、2011.6.11)
- ⑤ 中村艶子 「アメリカのワーキングウーマンは今」(大阪府男女共同参画センターはなみずきキャリア塾、2010.10.23)
- ⑥ 中村艶子 “Work/Life Balance in Japan,” Fulbright Occasional Lecture, (Smith College, the Center for Work & Life, Northampton, MA, the U.S.A., 2010.7.7.)
- ⑦ 中村艶子 “Corporate Childcare Centers in Japan: The Corporate Behavior by a Coercive Component (Hawaii

International Conference on Social Sciences, Hilton Waikiki Prince Kuhio, Kaiulani II, Honolulu, HI, the U.S.A., 2010.6.3)

- ⑧ 中村艶子 “Corporate Childcare Centers and Work/Life Balance in the U.S. and Japan,” Program on U.S.-Japan Relations Seminars, Weatherhead Center for International Affairs, Harvard University, Cambridge, MA, the U.S.A., 2010.4.20)
- ⑨ 中村艶子 “Work/Life Balance in Japan: The Coercive Component & Tendency” (Maureen & Mike Mansfield Foundation, Washington D.C., the U.S.A., 2010.3.26)
- ⑩ 中村艶子 “Work/Life Border: Can Corporate Childcare Centers Cross the Border in Japanese Society?” Sociologists for Women in Society (SWS) (Hotel Mar Monte, Santa Barbara, CA, the U.S.A., 2010.2.5)
- ⑪ 中村艶子 “My Life and Study on Work/Life Balance” (Monterey Institute of International Studies, CA, the U.S.A., 2009.11.21)
- ⑫ 中村艶子 “Work/Life Balance in the U.S. and Japan” Doshisha-AKP Symposium 同志社大学 AKP シンポジウム (Smith College, MA, the U.S.A., 2009.9.12)
- ⑬ 中村艶子 「男女共同参画推進条例づくりのためのワークショップ」(基調講演)「男女共同参画社会の実現に向け、なにが必要なのか？」(京田辺市社会福祉センター 2009.2.22)
- ⑭ 中村艶子 「欲張ったっていいじゃない！仕事も家庭も私の人生」(和歌山県りい

- ぶる de さんかくトーク、和歌山県橋本市、2008. 12. 12)
- ⑮ 中村艶子 「見つめなおそう 生き方・働き方～地域・家庭・職場から～」平成20年度「KYOのあけぼの大学」地域講座 於京田辺市社会福祉センター2008. 10. 30
- ⑯ 中村艶子 「女(ひと)と男(ひと)がともに働き続けるために ～仕事も子育ても両立を目指して～」平成20年度 意識啓発講座 男女共同参画推進員(参画スタッフ) 養成・基礎コース(大阪府吹田市立男女共同参画センターデュオ、2008. 10. 25)
- ⑰ 中村艶子 「アメリカのワーク・ライフ・バランス政策：育児支援面から」(社会政策学会於岩手大学 2008. 10. 11)
- ⑱ 中村艶子 「共に輝く、いきいきライフ～仕事も家庭も***も!～」りいぶる de さんかくトーク (和歌山県岩出市那賀振興局 2008. 9. 8)
- ⑲ 中村艶子 「ワーク・ライフ・バランスのメリット：業績アップをはかる意識改革」(兵庫県西宮市男女共同参画センター、2008. 7. 11)
- ⑳ 中村艶子 「企業内保育所研究」(立命館大学経営学部 2008. 6. 25)
- 21 中村艶子 「企業内保育所事例に見るワーク・ライフ・バランス」(労働政策研究会議, 於日本労使関係研究協会, 2008. 6. 21)
- 22 中村艶子 「キャリア開発とライフコース」同志社大学政策学部 2008. 6. 11
- 23 中村艶子 「アメリカのワーク・ライフ・バランス」(労務理論学会 於金沢大学, 2008. 6. 14)
- 24 中村艶子 “Changing Japanese Society: Promoting Work/Life and Next Generation Support” (South Kedzie Hall Conference Room, Graduate School of Industrial Relations, Michigan State University, MI, the U.S.A., 2008. 4. 28)
- 25 中村艶子 「企業内での男女共同参画について～男女協働社会をめざして～」甲賀市企業人権啓発推進協議会特別研修甲賀市商工会議所 2008. 4. 24
- [図書] (計4件)
- ① 【翻訳】第1章「序論」1-32、第3章「尊敬」73-113、伊藤健市、斎藤智文、中村艶子 『The Great Workplace』(ミネルヴァ書房、2012)
- ② 【共著】中村艶子 「ファミリー・フレンドリー企業とは何か」(15章) 渡辺峻編 91-94頁、森田園子・中村艶子 「女子学生の不安と悩みに応える」(17章) 渡辺峻編 『女子学生のためのキャリア・ガイドダンス』(中央経済社) 2012年、103-106頁。
- ③ 【共著】森田園子・中村艶子 「未来の自分への手紙：生き方・働き方のデザイン」8-12頁、「女子学生の就職事情：女子学生の悩みと不安に応えるワークライフバランス」146-150、渡辺峻、伊藤健市編『学生のためのキャリアデザイン入門』(中央経済社、2010)
- ④ 【共著】中村艶子 第11章、「結婚、出産、そのとき、あなたは?～ワーク・ライフの分岐点～」平澤克彦、澤田幹、守屋貴司編『多様化時代の人的資源管理：自分の未来をひらくために』(ミネルヴァ書房、2009) 188-205頁
- [その他]
ホームページ等
「ワーク・ライフ・バランス： 職場への導

入を考える」『地域経済ニューズレター
CURES』No. 84 特集：ワーク・ライフ・バラン
スと地域社会、金沢大学 人間社会学域 地域
経済情報センター

【報告書：翻訳(通訳書き起こし)】サンフォ
ード・M. ジャコビー「日本の人事部・アメリ
カの人事部」*Journal of International
Industrial Relations*, No. 28, 関西国際産業
関係研究所 June 2009, 45-64 2009. 6

【審議会】

京都府ワーク・ライフ・バランス専門部会、
滋賀県男女共同参画審議会、子育て専門部会、
京田辺市男女共同参画懇話会等の審議会・委
員会でも、本研究の知見を活かせる場を授か
った。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中村 艶子 (NAKAMURA, TSUYAKO)

同志社大学・グローバル・コミュニケーシ
ョン学部・准教授

研究者番号：30329958

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：